

ため池ハザードマップ 長瀬溜池

平成31年3月作成

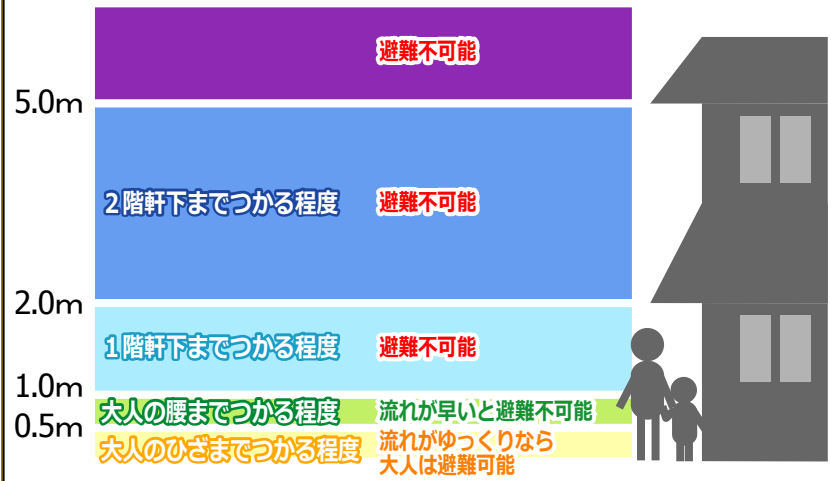
このマップは、長瀬溜池が決壊した場合の被害を把握するために、全ての貯水量が瞬時に流出する状況を想定し、10分後の浸水範囲を表示しています。災害の状況によっては、表示されている範囲以外においても、被害が発生する可能性がありますので、注意してください。

豪雨、地震によるため池の決壊が発生したとき

- 屋外にいたら** → マップの浸水範囲外に避難しましょう。
- 屋内にいたら** → 自宅に留まりましょう。
(むやみな移動はかえって危険です。)
- 避難場所へは** → 自宅が壊れるなど、避難場所に移動しなければならない場合は、周囲の状況を確認しながら避難しましょう。
(豪雨発生時は、河川の水位、音にも注意しましょう)

※災害発生後は、安全が確認されるまでは十分に注意しましょう。

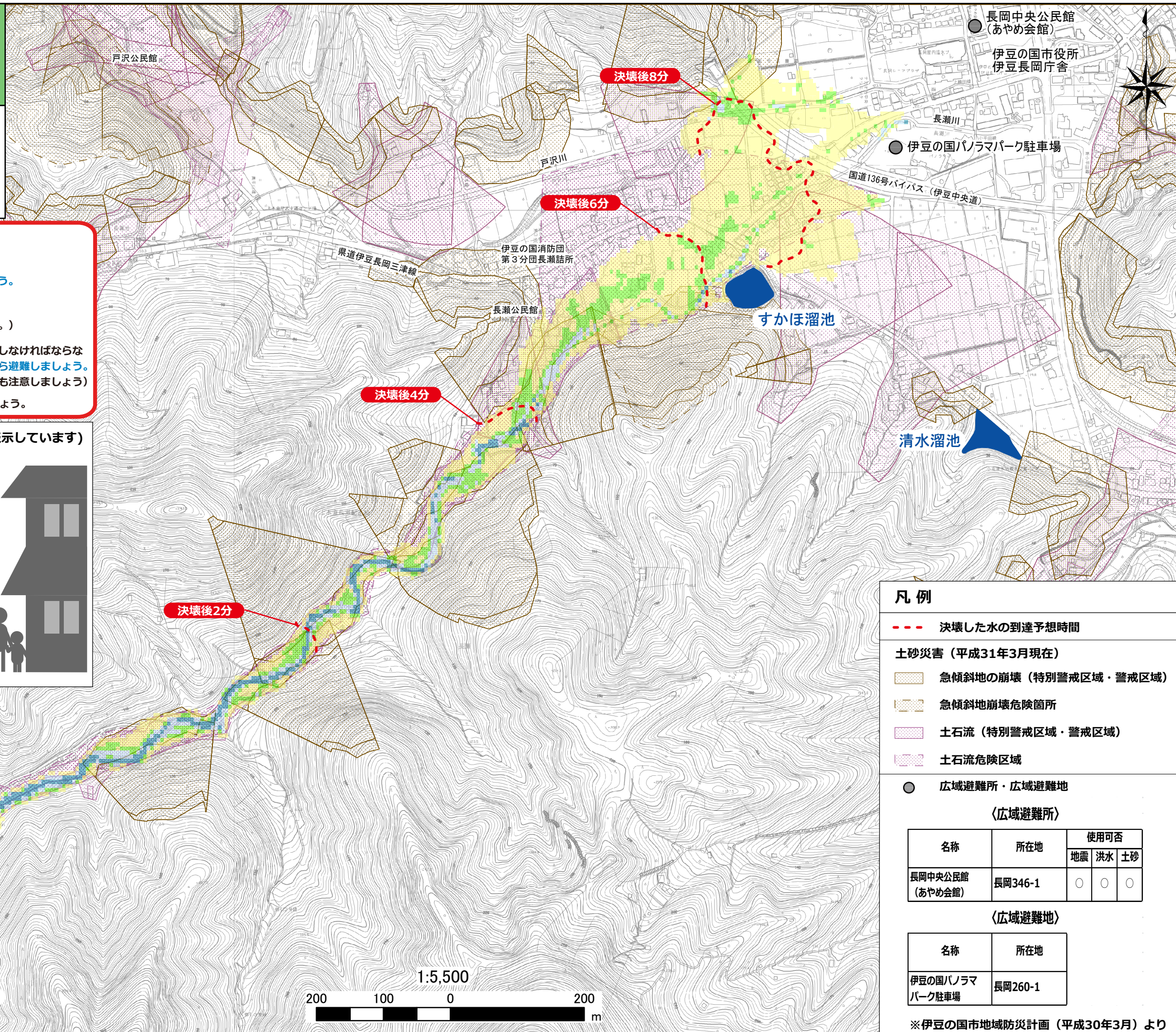
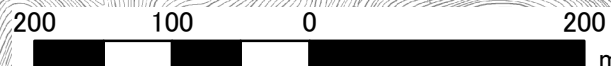
浸水の深さ(決壊～10分後の中で最も深い水深を表示しています)



長瀬溜池

総貯水量：23,000m³

1:5,500



凡例

--- 決壊した水の到達予想時間

土砂災害 (平成31年3月現在)

- 急傾斜地の崩壊 (特別警戒区域・警戒区域)
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 土石流 (特別警戒区域・警戒区域)
- 土石流危険区域

● 広域避難所・広域避難地

〈広域避難所〉

名称	所在地	使用可否		
		地震	洪水	土砂
長岡中央公民館 (あやめ会館)	長岡346-1	○	○	○

〈広域避難地〉

名称	所在地
伊豆の国パノラマパーク駐車場	長岡260-1

※伊豆の国市地域防災計画 (平成30年3月) より

伊豆の国市ため池ハザードマップ

ため池ハザードマップとは

ため池が決壊した場合の浸水区域を予測し、地図に示したものです。

近年、局地的な大雨や大規模な地震などによるため池の被害が発生しています。また、過疎化や高齢化が進み、ため池の適切な管理や、緊急時の情報伝達が的確に行われない懸念が生じています。

そのため、ため池が決壊した場合に、迅速かつ安全に避難するための参考資料として、「ため池ハザードマップ」を作成しました。

ハザードマップを作成すると・・・

日頃の防災意識を高めることができます

あらかじめ避難先を家族と話し合い、ため池決壊が起こりうることを意識することで、被害を防ぐことができます。

地域が抱える危険を、みんなで考えることができます

地域の防災対策の基礎資料となります。また、隣近所で助け合うことができます。

災害が起きたときに、すばやく的確な避難ができます

単に早く避難すれば良いとは限りません。状況によって、避難しない方が良い場合もあります。

マップの使用方法

マップを見て、どこへ逃げるのが災害の形態（豪雨、地震など）に合わせて確認しましょう。

ステップ 1

あなたの家の位置を探して、周辺の危険箇所などの状況を確認しましょう。



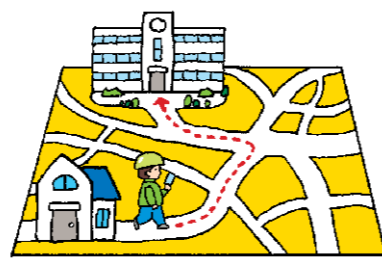
ステップ 2

あなたの家の避難場所と避難経路を選択しましょう。



ステップ 3

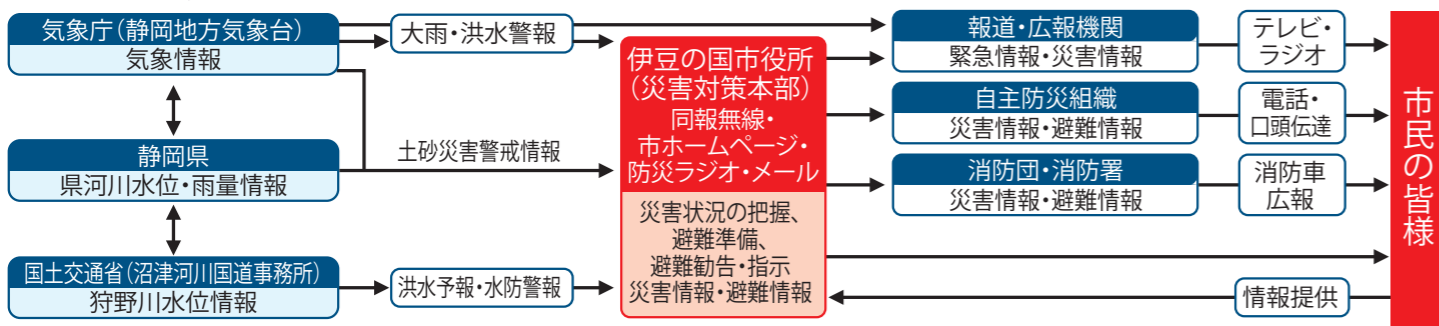
あなたが地図上で選択した避難経路を実際に歩いて安全かどうか確認しましょう。（その他の避難経路も確認しましょう。）



避難情報に注意しましょう

水害に関する防災情報は各機関から以下のような経路で伝達されます。市民の皆様は、テレビ・ラジオ・インターネットなどを活用して情報収集を行い災害に備えてください。

水害時の情報伝達方法



避難情報の種類と取るべき行動

避難情報には、緊急度に応じて3つの種類があります。どのような違いがあるか確認しておきましょう。

避難準備情報・高齢者等避難開始

- ◎避難に時間のかかる要配慮者^{注1}とその支援者は、避難を開始しましょう。
 - ◎その他の人は避難の準備を整え、以降の防災情報などに注意しましょう。
- 注1…高齢者や乳幼児、障がい者など、災害発生時に特に配慮が必要な方

避難勧告

- ◎身の安全を確保し家族や近所で助け合いながら、慌てず、速やかに避難してください。

避難指示（緊急）

- ◎すぐに避難してください。
- ◎避難が困難な場合は、自宅の2階や近くの高い建物へ避難してください。

状況に応じた避難とは

想定される浸水の深さによって、避難時に注意すべきことが異なります。マップをよく見て、避難場所や避難方法を考えましょう。

豪雨、地震によるため池の決壊が発生したとき

- 屋外にいたら** → マップの浸水範囲外に避難しましょう。
- 屋内にいたら** → 自宅に留まりましょう。（むやみな移動はかえって危険です。）
- 避難場所へは** → 自宅が壊れるなど、避難場所に移動しなければならない場合は、周囲の状況を確認しながら避難しましょう。（豪雨発生時は、河川の水位、音にも注意しましょう）

※災害発生後は、安全が確認されるまでは十分に注意しましょう。

基本的な考え方

避難のために外出する方が、かえって危険となる場合もあります。市から発令される避難情報に注意して、避難所へ避難するか、屋内の比較的安全な場所（2階等）に留まるなど、命を守るための判断・行動をとってください。

